

「巴川水系流域委員会」設立趣意書

巴川水系は流域の約50%が市街化された短時間に洪水の発生する典型的な都市河川で、平野部の河床勾配は約2000分の1と洪水が流れにくく、昭和49年7月七夕豪雨や昭和57年9月洪水では甚大な被害が生じました。大谷川放水路や麻機遊水地の供用により安全性は徐々に高まっているものの平成15年7月、平成16年6月、平成26年10月台風18号などの記録的な豪雨では、地域の安全・安心を脅かす浸水被害が発生しております。一方で、静岡県第4次地震被害想定では、現状の施設高を上回る津波の襲来が想定されており、これらの災害に対する安全性の向上が強く望まれています。

平成22年3月に巴川水系河川整備計画を策定し、河川整備等を進めて参りましたが、策定以降の社会・経済情勢の変化に対し、新たな治水対策や津波対策への対応が必要になったことから巴川水系河川整備計画を変更します。

巴川流域は川とともに歴史を重ねてきた地域であり、巴川水系の河川は、地域の生活に密接なかかわりを持ち、静岡市街地の貴重な水と緑の空間として地域社会へ潤いを提供し、まちの景観形成などの重要な役割を担ってきております。

このような背景を踏まえると、河川整備計画は、「治水」「環境」「利用」が調和し、また、「巴川らしさ」を尊重したものであることが必要です。

そこで、巴川水系に深い関わりを持つ方々から、多くの専門的な知見、また、地域の声を得ながら河川整備計画の策定を進めるため、静岡県が「巴川水系流域委員会」を設立します。